

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372500704		
法人名	社会福祉法人 不動産		
事業所名	グループホーム おとぎの国		
所在地	熊本県山鹿市鹿本町津袋585		
自己評価作成日	平成30年 2月 3日	評価結果市町村報告日	H30年5月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5-22
訪問調査日	平成30年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の広大な敷地の一角にグループホームは存在する。周囲は整備された庭園があり、南欧風に統一された建物は優雅さと安らぎを与えている。ホームでのケアは、理念にそって、入居者一人一人の個性や好みを把握し、寄り添う姿勢で提供している。機能的に優れ、明るく開放感のある建物内部の造り、自由な面会時間や外出(外泊)、利用者皆様の表情等に、安心と安堵感を感じられる家族が多く、高齢(認知症の高齢者)になったら、私もここにお願したいと有難い言葉を頂いている。又、行事での外出、地元の子供会の訪問や地区行事(運動会、茅の輪ぐり他)等での交流の他、法人主催の夏祭りやバラ祭り・地域交流伝承事業・GH運営推進会議の皆様等を通じて、知人や地域の皆さんとの繋がりが拡がり、この数年維持・交流できている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

穏やかで和やかな時間が流れる事業所は、設立以来地域交流に力を入れており、法人で開催されるバラ祭りは地域行事として根付いており、地域の方々や法人施設利用者・家族、また以前の利用者等の目を楽しませ、支えられている様子が窺える。日々の生活は入居者のペースで時間が流れ、理念である「えがおで明るくやさしい介護」が行われている。計画による外出や病院への定期受診等、様々な外出が見られ、外に出ることが入居者の身だしなみ、意識付けにも繋がっている。介護計画には「たまには化粧して出かける」という内容も見られ、化粧を楽しみ、背筋を伸ばし通院する様子も聞かれた。職員による食事も大切にされ、地域の食材で季節の料理や保存食を楽しみ、誕生会や季節行事のメニューは趣向が凝らされ充実したものである。日常生活の中での入居者と職員の会話も明るく、家庭での生活そのものが送られていることを実感できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念、基本方針とグループホーム独自の理念、職員憲章等を念頭におき、サービスを提供している。申し送りや会議時には、理念を基にした振り返りを行い、実践につなげてきている。	誰にも分かりやすい理念は各所に掲示され、職員のケアの基本とされている。職員会議時では振り返りを行い、運営推進会議には毎回参加者に啓発を行う等、共有を図るとともに地域全体で支える事業所として実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の子供会や地区行等での交流の他、外出先では馴染みの方や子供達が声を掛け協力して頂けるようになってきている。又、法人主催の夏祭りやバラ祭り等を通じての知人や地域の皆さんとの交流も、この数年格段の拡がりを見せ維持できている。	毎年恒例の法人主催である夏祭りやバラ祭りには地域の方や馴染みの方の来訪もある。交流が続く子ども会では、その後中学生となってからの職場体験に繋がる等、継続した地域との繋がりが出来ている。	法人と地域との交流は設立以来継続した様子が見られますが、入居者と地域との日常的な交流が絶たれることのないよう継続にも期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の皆さんの認知症等に対する相談にも応じており、ホームの施設だよりを地域(地元の3地区)にも開放し、回覧も数年前より行ってきている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月ごとに開催し、メンバーは、利用者代表、家族代表、区長、老人会長、民生児童委員、警察駐在員、市役所職員、等で構成している。地元との交流やホームでの日常生活の紹介、事業計画や外部評価内容等も報告し、意見を求めてきている。	運営推進会議資料には理念、職員憲章、介護理念を毎回掲載し、事業所への理解も深まっている。入居者の状況報告だけでなく、様々な参加者と意見交換をすることでサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎年、市主催の行事等に参加しており、運営推進会議へは、毎回、市役所の長寿支援課からの出席があっている。市の担当者や市社協からの訪問もあり、情報交換等を行いながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	山鹿市での認知症に関する行事や研修会、地域での徘徊模擬訓練等に参加・協力している。運営推進会議にも毎回参加があり、積極的に事業所の日常を伝え、協力関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が十分に理解している。又、研修や学習会にも参加し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアは法人全体の方針であり、職員は法人内外の研修や事業所の学習会を通じて理解を深めている。入居後間もない方の帰宅願望があり、さりげない見守りをする為に、玄関スペースの一角で事務作業をする等、見守り方法を職員で話し合いながら対応に工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はありません。職員会議でも勉強会を行い、虐待ゼロに向け全員で取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前入居されていた利用者がこの制度を活用されており、研修会でも学んできている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者と家族の方に、十分に説明し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関先や法人施設にも投書箱を設置し、寄せられた意見や要望等は真摯に受け止め、改善等に取り組む体制を整えている。	入居者家族の面会時や行事時等には積極的に職員から声掛けを行い、家族等の意見や要望を得る機会を持っている。頂いた意見には事業所・法人全体で取り組み、職員の間でも共有することとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホームでの会議や打ち合わせには、自由に意見を出し合える雰囲気と時間がある。GHの理念は、当時のスタッフ全員の意見から生まれており、行事や環境・ケアプラン等の改善に活用し反映している。	毎日の申し送り時や毎月の事業所会議を通じ、職員は意見を述べる場を持っている。入居者個別に対する見守りの方法等日頃のケアの在り方では職員の意見も取り入れられ、見直し・改善された例も見られた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きがいのある職場であり、職員の資格取得支援体制も充実している。更に、自己評価や外部評価等に取り組むことで、自己分析と共に、職場環境や意識を改革し、向上させて行くことが出来る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年、法人での施設内研修会(事例研修発表会)を実施している。県や市主催の研修会やグループホームのブロック間研修会等にも参加し、能力アップに努めて来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣地区のグループホーム等と定期的に講師を招き、問題点や取り組みの方法等を学びながら、サービス向上に向け取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階では、特に注意し、時間をかけて、対話や状態観察を行ってきた。又、本人が不安にならないようにと雰囲気や環境に配慮し関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	当初に限らず、その後の面会時にも家族等と相談する機会を設け、要望等を聞き、安心されるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居日やその前後に、本人や家族・担当ケアマネージャー等より情報を得、相談しながら、必要なサービス等を取り入れるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	取り入れるサービスが自立支援であることを念頭に置きながら、以前からの生活や本人が得意とされていたことを聞き、教わったりしながら、関係を築いていくようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に(年4回)写真入りの便りを発送し、面会時にも近況報告等を行い対話に努めている。又、知人宅訪問やお墓参り・病院受診などは出来るかぎり家族支援でお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前からの馴染みの関係が維持されるよう家族の協力を得ながら、お墓参りや知人宅訪問等をお願いしている。又、今年も、以前からの友人や知人、老人会(志々岐と藤井地区の老人会は定期的な訪問……)等の面会があり、これらの方々には再度の訪問をお願いし、家族にも伝えている。	家族との関係を大事にしており、協力も得ながら支援を行っている。老人会に以前から入会していた入居者には、役員の方が年2回の訪問が継続されており、地域との関係が途切れないことに入居者・家族に喜ばれている。定期診察での通院や隣接の法人施設訪問時には知り合いに会うことも多く、外出・訪問両面で支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	多少は相性や好みの差がでるが、生活や行動を共にすることで、助け合いや共有の関係が出来ており、支援にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当方からは、前入居者の方を訪ねており、必要に応じては当時の経過等を説明している。又、退所された方や家族が来荘される時もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの奥にある思いや希望する暮らし方などの把握に努め、本人の意向を第一に(困難な場合には、表情や反応から検討した本人の思い・家族としての思い等…)考え支援している。	職員は入居者との日頃の寄り添い・関りを大切にし、意向の把握に努めている。介護計画作成に入居者それぞれの担当職員が関わる様になったことで、これまでより更に入居者への対応・接し方が深くなった様子が見られる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、知人、前担当ケアマネージャー等からの情報を得て把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人との対話やスタッフ間での確認・観察記録等での情報により、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望をくみ取りながらも、利用者の残存機能をどう活用していくか、どう向き合い何を大切に組み込んでいくか等を話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	日頃のケアについての意見は全職員で出し合い、介護計画作成にはそれぞれの入居者担当者職員も関わっている。見直しは基本的に半年に1回で、日々の状況により変化が見られる場合は、都度見直しを行っている。	新しく入居される方についての事前面談や判定会議等の実施も今後必要になるかもしれない。少し丁寧な訪問記録は、職員の育成につながるものと思われますので検討を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	受診や目立った変化等がある場合には、個人日誌の赤枠の部分に書き加えるなど、本人の体調・状態の変化に応じた対応を行い、プランの見直しにも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人全体の施設には、多種多様なケアサービス体制が出来ており、それらを活用し、その時々生まれるニーズに対応して、生きがいや喜びを感じられる様な柔軟な支援ができるように取り組んできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援できている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される医療機関で適切な医療を受けられるように関係を築いており、情報も提供している。	入居前のかかりつけ医受診を支援するが、入居後は協力医を希望されることがほとんどである。基本的に定期受診や専門医受診は職員又は家族の協力を得ながらの通院で、通院が出来ない場合は協力医からの往診も可能である。	通院は入居者の外出する機会にもなり、良い刺激にもなっている様でした。入居者と家族の関係支援のために、家族への介助協力依頼は是非継続してください。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の個々の体調や状態の変化に応じて、適切な受診や看護支援が受けられるよう協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態変化や状況に応じて、早期の対応が出来るよう医療機関との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームへの入居時より相談し、重度化された場合のことも話し合ってきている。「終末期も、できればここでお願いしたい……。」と希望される家族もあり、今日まで、7名の方を看取って来ている。	入居時に事業所の対応について説明し了解を得ている。終末期となる時期には話し合いを重ね、医療に関する希望を確認しながら対応を行っている。協力医は法人の医療機関であり、緊急な場合の対応も可能で、法人全体で支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当は職員全員が行えるよう勉強会を行ってきている。又、隣接の法人施設にはAEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、消防署立ち会いでグループホーム単体での避難訓練を行い、その時には、隣近所にも協力依頼の声かけを行っている。又、法人全体で開催される消防署立ち会での避難訓練にも参加し、地元消防団や地域との協力体制の他、運営推進会議でも災害時の対応や協力体制等について検討を行ってきている。	毎年行っている避難訓練は、法人全体と事業所単体の両方行っている。熊本地震以降、法人全体で災害対策について見直しを行っているが、事業所単体で指導を受けた事項も取り入れ、振り返りを行うことで災害対策を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳とプライバシーの保護は施設の方針でもあり、一人ひとりの性格等に配慮した言葉かけや寄り添うケアを心掛けて来ている。	入居間もない時には特に配慮した声掛けを行い、異性介助にも配慮した対応を行っている。研修等で入居者情報を資料に掲載する際は、法人内研修であっても書類の取扱いについて徹底した注意を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生日や特別な日には本人の希望メニューを準備し、日々の暮らしやショッピング、外出時の食事等でも、本人の思い(判断)で決めてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や朝食は希望される時間帯であり、起床と就寝にも時間の幅を持たせており、行事のない昼間は、各々が思い思いのペースで過ごされる日が多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望により、訪問美容(理容)等を利用されている。又、特別な日や外出時の化粧や服装もその人らしい身だしなみ等ができるように相談しながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューやおやつ等、相談しながら決めていくし、準備や片付けなどを一緒に行い、食事と一緒に、会話を楽しみながら過ごしている。又、利用者の誕生日会や記念日等特別な日には、皆さんのお好みメニューを準備し、お祝いしている。	管理栄養士による献立もあるが、入居者の要望を聞きながら都度メニューを決めている。茶碗・湯のみ・箸は入居者による準備で好みも表れている。入居者の手伝いも出来る範囲であり、共に作った食事は職員も同じ食卓で囲み、会話を楽しみ時間を共に過ごしている。	食事は地元食材、季節、記念日を大切にしており、誕生日は誕生日当日にケーキも手作りで誕生日メニューが考えられています。食事の会話は早食い防止の目的もあり、食事でも大事なケアの時間としている事業所の姿勢が窺えました。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のアドバイスを受け、栄養バランスや水分量に注意しながら行っている。又、季節感のある食材を取り入れ、食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時の洗顔とうがい、食後の歯磨きとうがい、就寝前の入れ歯洗浄を行っている。スーパーソフト水を使用し、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンに合わせ、早めの声かけと誘導、介助を行っている。全員の方が、昼間は、トイレでの排泄を維持されている。	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、必要に応じ配慮した声掛けを行い誘導していることで、現在、昼間は全員トイレでの排泄が維持できている。夜は入居者の状況に応じた対応であるが、出来るだけオムツには安易に移行しない様、職員で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材を使った料理と十分な水分補給・日中の運動等で、便秘予防・自然排便に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望を確認し、気持ちよく入浴出来るように支援している。入浴中及びその前後には、見守り安全確認と体調管理に、特に注意を払っている。	入居者の希望により午前・午後とも、週2回以上の入浴を支援している。入浴時の体調にも注意し、また入浴が難しい場合や汚染時にも清潔保持を徹底している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立支援と各々の生活習慣が基本であるが、昼間の運動や入浴・活動的に過ごすこと等で夜間安眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬状況を書面で記録しており、効能や副作用、症状の変化等についても話し合い理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれの得意分野があり、それを活用し、日々の生活の中で張りのある毎日を送られるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々の外出や祭り等の見学、古里訪問、散歩、茶話会などを行ってきており、ホームの周辺にはバラ園や菜園など散歩や外気浴に適した場所が多い。又、古里訪問や知人宅訪問などは家族の支援でもお願いしている。	様々な計画により、近隣の公園や季節の花見、買い物と個別から数名での外出が年間を通して日々行われている。外出が難しい場合でも、玄関前で昼食を楽しむ等、外気を感じる機会が設けられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ショッピングや外食時等には、各々での支払いをお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	便りや贈り物等へのお礼の他、本人の要望があれば、電話をかけ家族等と話をされている。遠方のご家族からの電話等は特に喜ばれ、毎年、年賀状も出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物が吹き抜けで、二カ所のリビング(居間と食堂)がガラス越しに眺められる。光の庭や玄関の周りは、各々が一つの庭園であり、自然の光や季節の草花を楽しみながら過ごせるようになっている。	中庭を囲み明るく広々とした共有空間は、どこにいても職員・入居者の気配を感じることが出来る造りである。敷地内・事業所内ともに花を楽しむことができ、季節・日差しを楽しむことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	天気や気候に応じて、玄関横のベンチなどで外気浴をしたり、居間のソファや食堂で、気の合った人々と思い思いに過ごしたりもされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの部屋が本人と家族の設定であり、使い慣れた馴染みの家具(タンス、テーブル、椅子)の他、仏壇を持ち込まれている居室もある。面会時等にはお茶を飲んだり、アルバムを見たりして過ごされることが多い。	ベッドと洗面台が備え付けられた居室の入口扉にはそれぞれ異なるスタンドグラスが施され、落ち着きの中にも明るさが見える。室内には使い慣れた家具や仏壇が持ち込まれている。入居前には畳替えとカーテンの付け替えがなされ、入居時には気持ちよくまた独自の部屋作りが出来る様支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーの構造で、見通しもよく、各々の行動や居場所も確認しやすい。歩行器を見つけ運動される人や空いている居間のソファで談話したり休息される方々もおられる。		